

アジア健康長寿イノベーション賞

弘大奨励賞に輝く

岩木健診
評価 国際的な受賞は初

弘前大学は8日、高齢化に伴う課題に革新的な手法で取り組むアジア地域の団体を表彰する「第5回アジア健康長寿イノベーション賞」で奨励賞(ケアとウェルビーイング部門)を受賞したと発表した。弘前大C OI-NEXTを拠点に、弘前市などと共同で実施する大規模住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」(岩木健診)の健康ビッグデータを基盤に発展した取り組みが評価された。この取り組みの国際的な賞の受賞は初めて。

アジア健康長寿イノベーション賞は日本国際交流センター(東京都)と東アジア・アセアン経済研究センター(本部インドネシア)が2020年に創設。急速に高齢化が進むアジア地域で、健康長寿の達成や高齢者ケアの向上に貢献する取り組みを表彰している。高齢社会を巡る課題の広がりなどを踏まえて、今回部門を刷新した。

今回はアジア11カ国・地域から寄せられた多数の応募の中から日本、韓国、タイなど7カ国の8団体がグランプリ、準グランプリ、奨励賞に選ばれた。弘前大は第1回で国内優秀事例(コミュニティ部門)に選ばれて以降、国連アジア太平洋経済社会委員会の報告書への岩木健診などの掲載や取り組みの海外展開などで国際的に注目を高め、今回の受賞につながった。

国際的な賞の初受賞に、村下公一副学長・教授は「世界の健康づくりに貢献する取り組みとして評価されたことは、岩木地区をはじめとする市民の皆さん、弘前市、参画企業など、多くの方々の支えと協力の賜物」と深く感謝。受賞を契機に「弘前から生まれた研究成果を県内、国内はもちろんのこと、世界の人々のウェルビーイング向上を目指し、健康を基軸とした取り組みをさらに加速していく」と力を込めた。

アジア健康長寿イノベーション賞の奨励賞受賞を喜ぶ村下副学長・教授



ビッグデータを集める岩木健診をスタート。このビッグデータを核に、13年から国の研究支援事業の拠点として、産学官民金連携で地域経済の発展とウェルビーイングな地域社会モデルの実現に向けて研究成果の発信、社会実装を展開。25年には国が注力する「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAK S)」に採択。ウェルビーイング研究の世界トップを目指し、異分野融合による総合知で研究の国際展開を推進している。(稲葉智絵)